

平成26年10月27日
義務教育課、高校教育課

いじめ等児童生徒の問題行動への対応について

1 本県における「平成25年度児童生徒の問題行動等調査」結果について

(1) 調査項目

- ・暴力行為、いじめ、出席停止、不登校、長期欠席、中途退学、原級留置、自殺

※調査対象期間：平成25年4月1日～平成26年3月31日

(2) 調査結果の主な特徴 別紙1

①暴力行為

■暴力行為の発生件数は85件で、前年度より9件減少。

〔小学校1件、中学校29件、高等学校55件〕

- ・児童生徒1千人当たりの発生件数は0.9件（前年度1.0件）で全国最少。
- ・内容別状況は、生徒間暴力が46件と最も多く、対教師暴力15件、器物損壊15件、対人暴力9件。

②いじめ

■いじめの認知件数は855件で、前年度より381件減少。

〔小学校412件、中学校303件、高等学校136件、特別支援学校4件〕

- ・児童生徒1千人当たりの認知件数は9.2件（前年度13.2件）。
- ・学年別では、中学1年生が最も多く、男女別では、男子の件数が多い。
- ・解消率は95.7%で、前年度比1.4ポイント、全国比7.6ポイント高い。
- ・態様別では、「冷やかしかからかい、悪口や脅し文句等」62.9%、「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり蹴られたりする」21.1%、「仲間はずれ、集団による無視をされる」18.0% 等

※「パソコンや携帯電話等で誹謗中傷や嫌なことをされる」いじめは、全体の9.5%と、前年度比4.5ポイント、全国比4.8ポイント高い。

③不登校

■小学校：不登校者数は114人で、前年度より9人増加。

■中学校：不登校者数は501人で、前年度より2人減少。

■高等学校：不登校者数は340人で、前年度より10人増加。

- ・小中学校では学年が上がるごとに増加し、中学3年生で最も多い。高校では学年が上がるごとに減少。
- ・不登校のきっかけは、小・中・高とも「不安など情緒的混乱」「無気力」が多い。

④中途退学（高校のみ）

■中途退学者数は354人で、前年度より3人減少。

- ・事由別では、「学校生活・学業不適応」47.4%、「進路変更」26.8%、「問題行動」11.6%

2 いじめ等問題行動への対応について

(1) これまでの主な取組み

- 4月 ・「いじめ防止基本方針」に基づく具体的取組開始
・「ネット通信（スマートフォン）利用ガイド」を活用した指導（中1、高1）
- 5月 ・第1回いじめ問題対策連絡協議会、いじめ調査専門委員会
（いじめの防止等の取組状況と上半期の具体的活動について意見交換）
・幼児教育講座、保育園・幼稚園等巡回訪問開始
- 6月 ・第1回研修会（生徒指導担当教員、市町指導主事等）
・学校における道徳・人権教育の一斉実施
（いじめ問題を取り上げた授業や話し合い活動、思いやりや助け合いを題材とした道徳の授業等）
- 7月 ・第2回研修会（教頭、市町指導主事等）
・「ネット通信（スマートフォン）利用ガイド」を活用した夏季休業前指導
- 10月 ・第2回いじめ問題対策連絡協議会
（いじめの状況、いじめをなくす行動に関する具体的実践 **別紙2**）

(2) 調査結果からみた今後の課題と対応

①インターネット上のいじめが中学校と高等学校で増加

○ネット上のいじめは見えにくく、犯罪につながることもあるため、学校・家庭・地域が一体となった対応が必要。

- ・ネット利用に関するルールや約束事、挨拶運動等の方策等を共有し、社会全体で具体の行動を実施 **別紙3**

※ 第3回いじめ問題対策連絡協議会で具体を協議予定（12月）

②不登校者数が小学校と高等学校で増加

○欠席が続くと学校復帰には多くの時間と労力を要するため、新たな不登校を出さない未然防止と、欠席の兆候が見られる児童生徒に対する初期対応の徹底が必要。

- ・児童生徒の欠席状況を全教職員で把握できる仕組みの構築
- ・担任が抱え込まないための「支援チーム」による組織対応 等

「平成25年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果 (福井県 国公立学校)

(注)暴力行為、いじめ、中途退学、自殺については、平成25年度から高等学校通信制課程を調査対象に含めている。

1 暴力行為

(1)暴力行為の発生件数

年度	小学校	中学校	高等学校	計	
H20	1	26	55	82	
H21	2	29	48	79	
H22	4	24	45	73	1千人当たりの発生件数
H23	1	21	47	69	0.7
H24	1	38	55	94	1.0
H25	1	29	55	85	0.9
H25全国	10,896	40,246	8,203	59,345	4.3

(2)暴力行為の内容別状況

	H25	小学校	中学校	高等学校	計	H25全国 人
発生件数	対教師暴力	0	10	5	15	9,743
	生徒間暴力	1	16	29	46	34,557
	対人暴力	0	1	8	9	1,581
	器物損壊	0	2	13	15	13,464
	計	1	29	55	85	59,345

2 いじめ

(1)いじめの認知件数

年度	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	計	
H20	829	461	289	11	1,590	
H21	459	305	146	2	912	
H22	311	297	170	3	781	1千人当たりの認知件数
H23	227	222	155	7	611	6.4
H24	602	468	165	1	1,236	13.2
H25	412	303	136	4	855	9.2
H25全国	118,805	55,248	11,039	768	185,860	13.4

(2)いじめの認知件数の学年別・男女別内訳

H25	小学校			中学校			高等学校			特別支援学校			
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	小学	中学	高等	計
1年生	20	10	30	87	58	145	45	29	74	0	0	2	2
2年生	18	19	37	67	45	112	28	16	44	0	1	1	2
3年生	50	27	77	33	13	46	10	7	17	0	0	0	0
4年生	53	32	85				1	0	1	0			0
5年生	65	36	101							0			0
6年生	39	43	82							0			0
計	245	167	412	187	116	303	84	52	136	0	1	3	4

(3)いじめの解消状況(平成26年3月31日現在)

区 分	小学校	中学校	高等学校	特別支援	計	H25全国%
①解消しているもの	401	292	121	4	818	
	97.3%	96.4%	89.0%	100.0%	95.7%	88.1
②一定の解消が図られたが、継続支援中	7	7	15	0	29	
	1.7%	2.3%	11.0%	0.0%	3.4%	9.4
③解消に向けて取組み中	3	4	0	0	7	
	0.7%	1.3%	0.0%	0.0%	0.8%	2.2
④その他	1	0	0	0	1	
	0.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.3

(4)いじめの態様(複数回答)

区 分	小学校	中学校	高等学校	特別支援	計	H25全国%
冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる	276	180	80	2	538	
	67.0%	59.4%	58.8%	50.0%	62.9%	64.4
仲間はずれ、集団による無視をされる	81	47	26	0	154	
	19.7%	15.5%	19.1%	0.0%	18.0%	20.2
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	89	64	26	1	180	
	21.6%	21.1%	19.1%	25.0%	21.1%	23.3
ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	28	13	5	1	47	
	6.8%	4.3%	3.7%	25.0%	5.5%	7.9
金品をたかられる	4	11	4	0	19	
	1.0%	3.6%	2.9%	0.0%	2.2%	2.6
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	16	22	17	0	55	
	3.9%	7.3%	12.5%	0.0%	6.4%	8.1
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたりさせられたりする	28	23	9	0	60	
	6.8%	7.6%	6.6%	0.0%	7.0%	8.4
パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる	5	42	32	2	81	
	1.2%	13.9%	23.5%	50.0%	9.5%	4.7
その他	10	9	1	0	20	
	2.4%	3.0%	0.7%	0.0%	2.3%	4.5
認知件数	412	303	136	4	855	

※構成比は、各区分における認知件数に対する割合

3 出席停止の件数(公立小中学校のみ)

	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H25全国 件
小学校	0	0	0	0	0	0	0
中学校	0	0	1	0	3	0	47
計	0	0	1	0	3	0	47

4 不登校(小中学校のみ)

(1)不登校児童生徒数

	小学校		中学校		小中合計	
	不登校数	割合	不登校数	割合	不登校数	割合
H20	153	0.32%	655	2.61%	808	1.10%
H21	160	0.34%	637	2.54%	797	1.10%
H22	130	0.28%	592	2.42%	722	1.01%
H23	126	0.27%	508	2.08%	634	0.90%
H24	105	0.23%	503	2.09%	608	0.88%
H25	114	0.26%	501	2.10%	615	0.90%

H25全国 24,175 0.36% 95,442 2.69% 119,617 1.17%

(2)学年別不登校児童生徒数

	小1年	小2年	小3年	小4年	小5年	小6年	中1年	中2年	中3年	計
H25	1	5	10	14	41	43	115	179	207	615

H25全国 1,150 1,806 2,791 4,291 6,127 8,010 22,390 34,316 38,736 119,617

(3)不登校となったきっかけと考えられる状況(複数回答) ※上位5項目

区 分		小学校		中学校		小中合計		H25全国%	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合		
①	不安など情緒的混乱	36	31.6%	142	28.3%	178	28.9%	35.3	26.2
②	無気力	29	25.4%	139	27.7%	168	27.3%	23.0	26.2
③	いじめを除く友人関係をめぐる問題	24	21.1%	103	20.6%	127	20.7%	11.2	15.9
④	学業の不振	7	6.1%	76	15.2%	83	13.5%	7.1	9.2
⑤	親子関係をめぐる問題	25	21.9%	44	8.8%	69	11.2%	19.1	8.8

※構成比は、各区分における不登校児童生徒数に対する割合

5 長期欠席(高校のみ)

(1)理由別長期欠席者数

		病気	経済的 理由	不登校	その他	合計	不登校者 の割合
長期欠席者数	H20	143	5	298	100	546	1.25%
	H21	82	6	336	76	500	1.42%
	H22	90	4	403	84	581	1.69%
	H23	81	14	368	67	530	1.55%
	H24	67	6	330	145	548	1.39%
	H25	68	2	340	103	513	1.47%
H25全国		12,792	2,281	55,657	13,235	83,965	1.67%

(2)学年別不登校生徒数

H25	1年	2年	3年	4年	合計	
全日制	100	79	61	0	240	
定時制	47	34	15	4	100	
合計	147	113	76	4	340	全国単位制
H25全国	14,928	12,287	8,331	590	55,657	19,521

(3)不登校となったきっかけと考えられる状況(複数回答) ※上位5項目

区 分		高校		H25全国%
		人数	割合	
①	不安など情緒的混乱	101	29.7%	16.5%
②	無気力	87	25.6%	30.3%
③	いじめを除く友人関係をめぐる問題	31	9.1%	8.7%
④	病気による欠席	27	7.9%	7.8%
⑤	意図的な拒否	26	7.6%	5.1%

※構成比は、各区分における不登校児童生徒数に対する割合

(4)不登校のその後

H25	学年	中退	原級留置	進級・卒業	合計
不登校者数	1年	56	25	66	147
	2年	39	13	61	113
	3年	10	7	59	76
	4年	1	1	2	4
	合計	106	46	188	340
H25全国		29.6%	8.6%	61.8%	

※構成比は、各区分における不登校児童生徒数に対する割合

6 中途退学(高校のみ)

(1) 中途退学者数

年 度	福 井		H25全国
	中途退学者数	中退率(%)	
H20	383	1.6%	2.0%
H21	349	1.5%	1.7%
H22	311	1.3%	1.7%
H23	343	1.4%	1.6%
H24	357	1.5%	1.5%
H25	354	1.5%	1.7%

(2) 事由別中途退学者数

		学業不振	学校生活不適応	進路変更	病気死亡	経済的理由	家庭の事情	問題行動	その他	合計
中退者数	H20	27	181	119	10	12	6	26	2	383
	H21	36	131	95	14	13	18	38	4	349
	H22	40	111	102	14	11	6	20	7	311
	H23	30	134	126	11	8	11	14	9	343
	H24	23	131	130	13	3	39	12	6	357
	H25	19	168	95	6	7	13	41	5	354
H25全国		4,845	21,726	19,668	2,245	1,337	2,541	2,874	4,506	59,742

(3) 課程・学科・学年別中途退学者数

学年	全日制			定時制	計
	普通科	専門系学科	計		
1年生	62	57	119	36	155
2年生	54	53	107	38	145
3年生	10	17	27	19	46
4年生	－	－	－	8	8
計	126	127	253	101	354
H25全国	23,920	11,387	37,890	12,234	59,742

7 課程・学科別・学年別原級留置者数(高校のみ)

学年	全日制			定時制	計
	普通科	専門系学科	計		
1年生	17	37	54	－	54
2年生	16	18	34	－	34
3年生	1	3	4	8	12
4年生	－	－	－	11	11
計	34	58	92	19	111
H25全国	6,181	2,343	8,524	3,203	17,914

8 自殺の人数

	小学校	中学校	高等学校	計
H25	0	0	0	0

いじめをなくす行動に関する具体的実践

■いじめが起きにくい集団づくりに向けた児童生徒主体の取組

①南越前町4小学校

【内容】児童会や異学年で構成された「あいさつ隊」等が中心となって、毎朝登校時に挨拶運動を展開し、「大きな声で、相手を見て、自分から」等、相手も自分も心地よい挨拶を心がけるとともに、「あいさつがんばりカード」を活用し、自分の挨拶を日々振り返った。

【成果】「こんにちは」等の校内での挨拶も活発になり、地域においても自主的な挨拶が増えた。

②気比中学校

【内容】「ストップ！いじめ・暴力」アクションプランの一環として、学級の代表や生徒会が募った生徒有志が「君を守り隊」を結成（入隊届を提出して隊員バッジをもらう：入隊率は20%超で今後40%を目標）して校内を巡視し、一人で居る生徒や人が嫌がることをしている生徒等を見回りながら声かけをする。

【成果】入隊率が徐々に増え、生徒が互いに言葉をかけ合うことも多くなり、誰かが気にかけてくれているという存在感を実感できるようになった。

③藤島高校

【内容】高校入学の4月、1年の全クラスでホームルーム（1時間）を使って、「ネットトラブル」を防ぐためのLINE等のSNS使用のルール作りについてグループ討議を行い、自分の取組宣言を行った。

【成果】「ネット上で自分の言動に責任をもつ」、「未然に危険を予想・予測し、相手を傷つけていないかを考える」などの宣言がみられた。

④嶺北特別支援学校

【内容】学級で人が嫌がる言葉（ちくちく言葉）と人が喜ぶ言葉（ぽかぽか言葉）を発表し合い、それを大きな紙に書いて教室内に掲示した。

【成果】友達同志で「～はだめ」と断言的な発言をするよりも「～はやめて～をした方がいいよ」という言い方をするよう約束することができた。

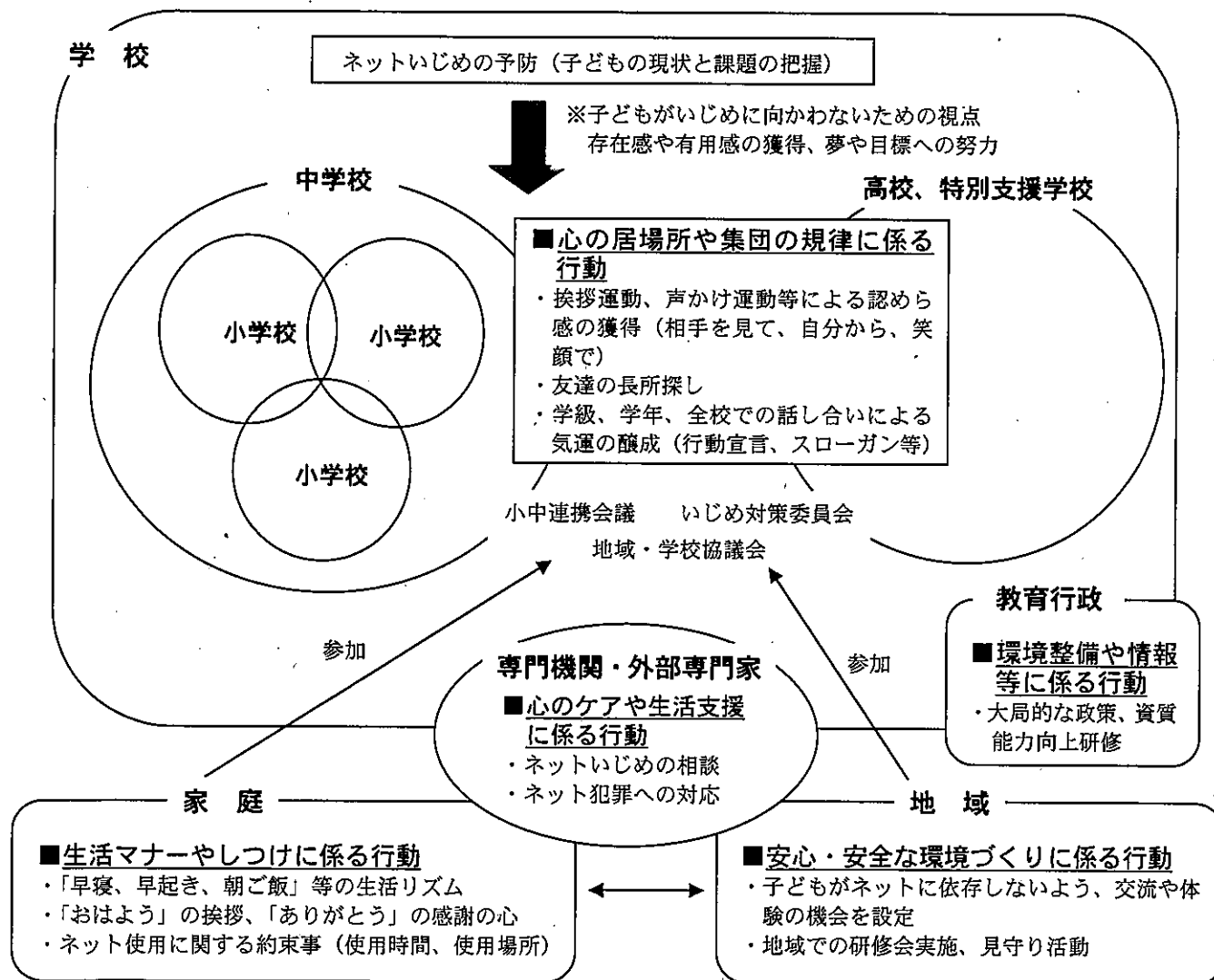
インターネット上のいじめ防止運動の展開について(案)

1 目的

- インターネット上のいじめを防止するため、学校における子どもの主体的な防止活動を核とし、家庭や地域が協働して取り組むことにより、社会全体で「いじめをしない、させない、許さない」気運を盛り上げ、いじめのない学校や社会をつくる。

2 取組イメージ

※学校（中学校区）を中心とした活動に、家庭や地域が協働する。



3 活動の観点

- ネットいじめに走らない子どもを育てるため、学校を核としてどのような行動を起こしたらよいか。
- 子どもの適正なネット利用のため、家庭や地域ではどのような行動が必要か。また、学校とどのように連携を図ったらよいか。

〔共通実践の例〕

- ・インターネットの所持やルール・約束事
- ・適正なインターネット利用のための研修会や啓発活動 等